



マジックワード

君たちの先輩で、現在さまざまな分野で活躍されている方は山ほどいらっしゃるのだが、国語的な観点から言うと、内田樹先生ははずせないだろう。大学入試という観点からいうとちょっとブームは去った感もあるが、現代思想を分かりやすく解説してくれる文章の書き手として、また、私たちが常識と思いついでいることを新たな視点から分析してくれる書き手として、未だに第一線でご活躍中である。たぶん、この通信でも、これから何回も引用することになるだろう。

先生は1950年東京生まれ。日比谷高校を高2の時に退学し、大学入学資格検定を経て東大に入学。仏文科を卒業した後、東京都立大の大学院で学び、その後、昨年まで神戸女学院大の教授だった。専門はフランス現代思想、映画論、身体論。合気道の達人で、武道家としても有名である。たぶん、ホトちゃん文庫にも何冊か入っている（『現代思想のパフォーマンス』があったはず。でも、これはちょっと難しめ…）と思うので、興味のある人は読んでみてほしい。（ブログも超有名）

その内田先生が「成功する人の条件」について、次のように述べている。（朝日新聞、2012年4月22日朝刊、朝日求人コーナー）

＊

学ぶ力には三つの条件があります。第一は自分自身に対する不全感。自分は非力で、無知で、まだまだ多くのものが欠けている。だからこの欠如を埋めなくてはならない、という飢餓感を持つこと。

第二は、その欠如を埋めてくれる「メンター（先達）」を探し当てられる能力です。メンターは身近な人でもいいし、外国人でも、故人でも、本や映画の中の人でもいい。生涯にわたる師ではなく、ただある場所から別の場所に案内してくれるだけの「渡し守」のような人でもいいのです。自分を一步先に連れて行ってくれる人は全て大切なメンターです。

第三が、素直な気持ち。メンターを「教える気にさせる」力です。オープンマインドと言ってもいいし、もっと平たく「愛嬌」と言ってもいい。

以上、この三つの条件をまとめると、「学びたいことがあります。教えてください。お願いします」という文になります。これが「マジックワード」です。これをさらっと口に出せる人はどこまでも成長することができる。この言葉を惜しむ人は学ぶことができないのです。学ぶ力には年齢も社会的地位も関係がありません。みなさんも、いつまでも学ぶ力を持ち続けてください。

＊

「学びたいことがあります。教えてください。お願いします」はイイ文である。この気持ちを忘れずに、一時間一時間の授業を大切にしよう。同時に、先生方を「教える気にさせる」ことも重要だ。キレイな黒板やピシッとした挨拶がその第一歩だろう。「真面目な場面」と「笑う場面」のけじめをつけて、先生方の最高のパフォーマンスを引き出そう。